
オレと化け猫

風見鶏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレと化け猫

【Nコード】

N3430B

【作者名】

風見鶏

【あらすじ】

ある日、三井和也はいつもの道を通って学校から帰宅した。しかし家に着くと玄関の前はマタタビとマヨネーズでグチャグチャになっていた！！おそろおそろ家の中に入ってみると・・・

(前書き)

どうも。新人の風見鶏と申します。
初投稿です。評価、コメントなどいただけると嬉しいです。よろしく
お願いします。

気温は30度。オレは、このとても蒸し暑い中を学校から一人で帰っていた。

オレの名前は三井和也。学校では「酸味のあるコラーゲン」と、呼ばれている。酸っぱいものが好きなのと、前に学校の全校集会でコラーゲンについて熱弁したことからこの名前が付いてしまった。

太陽がとても強く照りつけ、コンクリートは熱を帯びて熱くなる真冬の今。

……あつ。じゃなかった。真夏の今。今日は学校が期末テストで終わるのが早かったため、いつもより帰りが早い。

いつもの道を通りオレの住んでいるアパートに着いた。玄関の前はマタタビとマヨネーズでグチャグチャに。

マタタビにマヨネーズ!?!? なんておいしそうな組み合わせ!?!

とか思……いはしないが、とりあえず家の中に入る。

「まったく! あそこの犬はいつも私のマヨワタを食べ……」
!?!?

誰!?!?

オレの目の前には頭にネコミミ、口の周りにマヨネーズを付け、マタタビを食べている変な人が……いや、人ではない化け猫？がいた。

「あっ！三井……「酸味のあるコラーゲン」さんだよね！？」

なぜ言いかえた！！怒るぞ！？キレルぞ！？

「お前誰だ！？」

「私！？私はエビちゃんだよ♪」

うん。違うよね。キュウリとキウイが名前似てるけど見た目全然違うのくらい違うよね。

「いや、絶対違うでしょ！」

「あっ！？バレた！？テヘッ♪」

いや、テヘッ♪じゃなくてさあ。つか、バレない人いねえっ！の！誰だよこの馬鹿は！！ああムカつく！！大豆投げてやりてえよ！大豆をthrowしてやりたいですよ！！

「私は妖怪の鈴です！今日からここに住んでるの♪」

ああー、ここに住んでるのか。

そうか。

……うん。おかしいね。ここはオレが住んでるはずなんだけ
なあ?? つゝか、妖怪って!?! この化け猫ちゃんは妖怪なわけ!?

「つゝか、ここはオレの家なんだけど!?!」

「うん。知ってるよ♪」

ハッ!? 知ってる!?! じゃあ、なにを考えてるんだこいつは!

「つゝか、化けね……じゃなかった。妖怪ってのは何!?!」

「妖怪だよ♪」

はい。答えになってませんね。だが、こいつは見た目化け猫……
というか、話を聞くとコイツは妖怪らしい。まあ、格好からして
おかしいもんな! 普通に見たら変態だし! 最上級の変態だし! 英語
で言うともost付くし!!

「あっ! 今日から一緒に住むから♪夜露死苦!!」

うわゝ、いきなり何逝っちゃってんの? つゝか、後半なんか怒っ
てるし、超怖いし、歯? キバ!?! が、光ってるよ! しかも、〔夜露
死苦〕って何!?! 80年代の妖怪ですか!?!

「いや、無理だ! 一緒に住むとか103%無理だから!」

「なんで!?! 噛むよ!?! ひっかくよ!?! 昨日もこの爪で……」

……三%にツツコミはないらしい。

しかし……つゝ、爪で何だ!?! まさか、人を殺したり……

「爪で大根の千切りをしてたんだから!!」

……だ、大根の千切り!? そ、それは家庭的な!! ……って、前
言撤回!! コイツは怖いんじゃない! おかしいんだ!! だけど、
あの爪は人でもサクッと切っちゃいそうで……もし逆らったら……!

「わ、……!」

「わ、分かったからその爪をしまえ!」

化け猫はその鋭い爪をしまった。

「じゃあ、今日からよろしくね♪」

「いや、それはちよっ……」

「貴様! もし断ったりしたら貴様も大根のように千切りに……」

キャラ変わりすぎだ! それに、「大根のように千切り」って怖い
けど、脅し文句にはおかしいよね。

「分かった! 分かったよ!」

オレは渋々同居生活を合意した。

いくらなんでも、オレの最後が大根と同じ運命だというのは悲し
すぎる!!

「やったー!! じゃあ、今日からよろしくね♪ 特別に私のマヨワ
タあげる!」

そう言って渡されたのはマヨネーズ付きのマタタビ。

マヨワタ？

マヨネーズ。

マタタビ。

うん。これおかしいね。どこをどう切って繋げてもマヨワタにはならないね。

「これ食べ物!？」

普通の人間はマタタビにマヨネーズなんてかけないだろう。いや、その発想すら生まれないだろう。

「まあ、食べてみなよ!これがまた最高なんだから♪」

しぶしぶオレはこの「マヨワタ」とかいうのを口へ運ぶ。

……!

「ゲホッ、ゲホッ!」

ま、不味すぎる!

オレは死にかけた。ポケ○ンでいうと、瀕死状態だ。

「ね!おいしいでしょ!~!」

こ、この化け猫娘の目は節穴か！？オレはこんなに苦しんでいるのに。

どんなにうまい役者だろうと今のオレのこの苦しみ方は真似できないだろう。

「もっと、欲しい?？」

……こいつはそんなにオレに死んでほしいのか？嘘にしても限度というものがあるだろう。

「いや、もういない！」

「ふん。まあいいや♪これからよろしくね♪」

そんなこんなで、オレとこの化け猫の共同生活が始まってしまったのだ。

……ゲホッ、ゲホッ！！

（後書き）

作者の風見鶏です。

「オレと化け猫」どうだったでしょうか？初めての作品なのでダメなところが多かったとは思いますが、評価、コメントなどいただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3430b/>

オレと化け猫

2010年12月13日04時35分発行